



福王寺だより

お彼岸も過ぎ、冬に向かうこの季節は日が暮れるのも早くなり、なんとも寂しい季節であります。

一日一日大切に、味わい深く生きていきたいですね。

「老いる」とは

月に一度、インターネットで知り合った友達と読書会をしております。「私とお坊さんと読書会」という名前で「peaix」というサイトで募集し、数人ではありますが来てくれた方と本についてお話しします。

九月は河合隼雄さんの「老いるとはどういうことか」という本を読んで、老いについて話し合いました。

みなさんが興味を引いたのはアイヌ民族の話で、ボケてきて、わけわからん言葉を発するようになった老人に「ボケている」と言わず、「神用語を話すようになってきたな」というそうで、神様に近づいて来ている、と寛容な接し方をするというお話でした。

他にも老いをマイナスと捉えずに、死に向かう前にもう一度人生を味わいたいという声もきこえました。

「死」を新たなステージに立つと捉えると、老いは魂を磨くラストスパートなのかもしれませ



ん。

以前も紹介したかもしれませんが、ヘルマン・ホイベルスさんの「最上のわざ」をご紹介します。見たいと思います。

「最上のわざ」

この世の最上のわざは何？
楽しい心で年をとり
働きたいけれども休み
しゃべりたいけれども黙り

失望しそうなときに希望し

従順に平静に、おのれの十字架をになう

若者が元気いっぱい神の道をあゆむのを

見てもねたまず、

人のために働くよりも、

けんきよに人の世話になり、

弱って、もはや人のために役立たずとも、

親切で柔和であること。

老いの重荷は神の賜物。

古びた心に、これで最後のみがきをかける。

まことのふるさとへ行くために

おのれをこの世につなぐくさを少しずつ

はずしていくのは、真にえらい仕事。

こうして何もできなくなれば、

それをけんそんに承諾するのだ。

神は最後にいちばんよい仕事を残してくだ

さる。それは祈りだ。

手は何もできない。けれども最後まで合掌

できる。

愛するすべての人のうえに、神の恵みを求

めるために。

すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声

をきくだろう。

来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじと。

行事のご案内

十一月六日 午前九時

第三回下座行

第三回目の下座行です。先祖様に供養す

ると同時に心を磨きましょう。

境内が綺麗になっていく様は、気持ち良

いですよ。

十一月十七日

午前十時 報讃会

今年最後の大法会です。網走の管内のご寺

院様、布教師様をお招きし、一年の感謝を

込めて祈りを捧げます。

来年4月八十八カ所参拝！

お申し込み受け付けています。ぜひご参加ください！

中々行けませんでしたが、思い切っていきませんか？

一度きりの人生、感謝と願いをこめて旅を致しましょう。

